



チェルノブイリ原発事故29周年の集い

ヒロシマ・ナガサキ70年から
チェルノブイリ30年・フクシマ5年へ
チェルノブイリとフクシマを結んで
ひろげよう！支援・交流
フクシマを「核時代の終わりの始まり」に！

< I 部 >

- * 長崎被爆者山科和子さん（救援関西代表）：
挨拶 & 「ナガサキの証言」ビデオ上映
- * 基調報告：
ヒロシマ・ナガサキから70年、チェルノブイリ30年・
フクシマ5年に向けて～「救援関西」の課題

< II 部 >

- * 詩朗読（長沢由美さん）
- * 特別講演：村田三郎さん（阪南中央病院・副院長）
被爆者医療に携わってきた医師の想い
- * 対談：村田三郎さん & 振津かつみさん（救援関西事務局）
ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリ・フクシマを結んで
- * 討論・アピール



1992年 ベーラさん・バーリャさんと原爆ドームの前で



日時：4月5日（日） 午後1時半～4時半
場所：大阪市立総合生涯学習センター5階
第1研修室（大阪駅前第2ビル）

連絡先：いのまた 0722-53-464 たなか 0797-74-6091

今年にはヒロシマ・ナガサキ原爆被爆から70年を迎えます。そして来年はチェルノブイリ原発事故30年、フクシマ事故5年になります。また来年は私たち「チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西」の発足25周年にもあたります。この節目の時期を、今までの活動を振り返り、意義と課題を整理し、多くの皆さんとともに、次の取り組みにつないでいけるような2年間にしたいと考えています。

私たちは、1991年からチェルノブイリのヒバクシャとの交流・支援の活動に取り組んできました。その中で「ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリを結んで」「繰り返さないで、チェルノブイリ」が合言葉となりました。しかし、フクシマ事故が起きてしまい、その深い悲しみと悔しさ、反省の中で、フクシマ事故の被害者との交流・支援にも取り組んできました。そして「フクシマを核時代の終わりの始まりに」したいと、皆さんと共に活動を続けてきました。

フクシマ事故からまる4年が経ちましたが、被災地の課題はまだ山積みです。それにも関わらず、早くも事故の「風化」が懸念され、原発の再稼働が強行されようとしています。

今回の「集い」では、「救援関西」の代表で長崎被爆者の山科和子さんの挨拶とビデオ「ナガサキの証言」の上映、また山科さんの担当医でもあり、長年、被爆者医療に携わってこられた村田三郎先生を迎えてのお話と対談を通じて、私たちの原点—ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリのヒバクシャの想い—を改めて確認し、共有したいと思います。また、ヒロシマ・ナガサキとチェルノブイリの経験をフクシマ支援にどう生かすかなど、皆さんと話し合いたいと思います。さらに「核被害のない世界」を目指す、新たな一歩になるような集いにしたいと思います。

多くの皆さんのお出でをお待ちしています。



村田三郎さん プロフィール



阪南中央病院副院長

大阪大学医学部附属病院で内科研修後、同病院放射線科に勤務。

1978年から阪南中央病院に勤務し、現在に至る。

関西在住の広島・長崎の原爆被爆者の健診や医療に長年携わってきた。また「被爆者援護法」制定運動を進めるため「阪南中央病院被爆者実態調査実行委員会」代表として、被爆者のアンケート調査にも取り組んできた。

原発被ばく労働者の問題にも関わり、被ばく労働者の労災認定に尽力。

また、関西在住の水俣病患者の医療と支援にも長年携わる。

さようなら原発 関西アクション

—とめよう！高浜原発再稼働—



フクシマ事故を契機に毎年行われている脱原発の共同行動が、実行委員会の主催で3月8日に行われ約3500人が集まりました。午前中は北区民センターを中心とした特別企画—映画上映と西尾正道さんの講演など—が行われ、午後は扇町公園で集会の後、2コースに分かれてパレードが行われました。

【参加しての感想】

*久しぶりにパレードにも参加。天六梅田コースを歩く参加者の平均年齢の高いのに驚く。シュプレヒコールの掛け声に呼応してくれるのも同じような年齢の人たちが多い。少数派の若者は素知らぬふりをしている。もっともかなあ—とも思う。原子爆弾で世界で初めての被害を受けているにもかかわらず、原子力発電を押し進めてきたのは私たち世代なのかも知れない。親世代は今あるものを大切に、決して無駄にせず再利用できるものは使うようにしていたように思う。

私たちは経済という口車に乗せられ浪費が素晴らしいものだと思わされてきたのだから。そういえば親はよく言ってたよね、そんな勿体ないことばかりしていたら今に罰が当たるよと。

だからこそ私たちの世代で原発幻想は終わりにしなくてはと思う。 (横山清美)



*私は福島原発の事故があってからデモに参加するようになった。毎年参加しているが、参加するたびにデモってこれでいいのかなって思う。

残念に思うこともあるこの集まりに毎年参加するのは、意思表示にはなるからだ。それと真面目に良識的に活動されてこられた方々に会えることもある。

批判的なことを書いたが、続けることにも意味はある。ただ、続ける中でより良くしなくてはならないと思う。全ては原発をなくし、放射能で被害を受ける人をこれ以上出さないために。

(石橋 武史)

* 事故から4年が経ち、5回目の春を迎えようとしています。しかし、いまだに福島県だけでも、故郷を奪われ避難生活を送る人は12万人にのぼり、明日の见えない不安な生活を強いられ苦しんでいます。震災（事故）関連死は、地震・津波直後の1604人を上回って増え続け、1885人を数えます（3.14現在）。放射能汚染は広く福島周辺県にもおよび、多くの人が放射線管理区域相当の場所での生活を余儀なくされています。そんな中で、政府はともあろうに一般の人の被ばく線量の20倍にあたる、年間被ばく線量20mSvで帰還を促しています。しかも事故は原因も十分究明されず、熔融燃料のありかさえ分からず、収束からはほど遠い状態が続いています。汚染水問題も解決されずに、放射能は海に空に漏れ続けています。毎日7000人もの方が高濃度の放射線のもとで被ばくしながら、過酷な収束作業にあたっています。本当にひとたび重大事故が起こればその被害は時空を超え取りかえしがつきません。そのことをまざまざと見せつけられているのに、政府・電力会社は、まるでフクシマ事故などなかったかのように、厚顔にも重大事故が起こることを前提に原発の再稼働に向かい、関西電力は原発維持のために電気料金再値上げを申請し、高浜原発の再稼働に向かって突っ走る。なんということでしょうか。

フクシマ事故を繰り返さないためには原発を止めることしかありません。なんとしても再稼働を止めさせるためにも、多くの人たちと再稼働反対の声をあげていかなければ・・・。無駄を排しながら、再生可能エネルギーへ転換へと迫っていかなければ・・・。
集会に参加しながらそんな思いを強くしました。（猪又）

ベラルーシ・ミンスクの町・マリノフカの「移住者の会」から事故4周年に際して
連帯のメッセージが届きました。



「福島第一原発事故4周年」に際しての連帯のメッセージ

親愛なる「救援関西」の皆さん。

親愛なる日本の友人のみなさん。

福島第一原発事故の悲しい周年がまた巡ってきました。その日に際し、チェルノブイリ原発事故の被害者である私達は、2011年に起きた事故の悲劇に対して、日本の皆さんと思いを同じくしています。

私たちは、あなた方とご家族の方々の健康、繁栄と成功をお祈りしております。

ミンスク・「移住者の会」代表
フィロメンコ・ジャンナ

～報告～フクシマとの連帯の想いを新たに

2015 原発のない福島を！県民大集会



3月14日、東電福島第一原発事故4周年に際して、福島市内の「あづま総合体育館」で開催された「2015 原発のない福島を！県民大集会」に参加してきました。この「県民大集会」は、福島県平和フォーラム、県生協連、県漁連、県女性団体連絡協議会などで構成する実行委員会の主催で、事故の翌年から毎年開催されているものです。今年は、未だ避難を強いられている浜通の市町村を含む12の被災自治体の後援も得て行われました。当日は、福島県の内外から6500人（主催者発表）が参加しました。

オープニングは、力強い「山木屋太鼓」で幕開けしました。原発事故で避難生活を強いられる中、小学生を含む山木屋（川俣町）の若者たちが練習を重ねてきたという、実力のあるグループの演奏です。人々が避難した故郷に、夏草が勢いよく茂っている姿を見て、自然の生命力、復興への力を感じて作ったという創作太鼓「千草」。故郷の祭りをイメージし、「暗闇にもいつか光が射す」という思いを表現した「天岩戸」（あまのいわと）など、故郷への想いと復興への願いを込めた太鼓の音と勢いあるパフォーマンスは圧巻でした。

集会の冒頭では、実行委員長の角田政志さん（平和フォーラム）が「未だ12万人もの人々が避難を強いられている。県内原発の全基廃炉を県内の議会や知事も求めているが、国や東電は第二原発廃炉の方針を出していない。オール福島はこの集会を原点に、福島に原発はいらない。県民の健康、とりわけ子どもたちを放射能からまもり長期にわたる健康を保障すること、国と東電に事故被害への完全賠償と生活再建支援を求めよう。」と、力強く訴えました。東京から駆けつけた作家の落合恵子さんの連帯の挨拶。そして「ヒロアクション福島」の武藤類子さんを皮切りに、県民のトークリレーが続きました。大会開催

協力のために当日呼びかけた会場カンパは 121 万円あまり集まったとのこと。大会の最後には「事故は未だ収束せず。国や東電は事故を引き起こした責任を果たしてきたでしょうか。被害者が人生を取り戻す真の復興に向けて、支援し、ともに歩み、活動していきましょう。過ちを繰り返してはならないことを福島の地から発信し続けよう。事故を記憶し、学び、原発のない福島をめざし、力を合わせていきましょう。」とのアピールを採択しました。

トークの内容の全部をここに紹介できませんが、以下に私のメモから一部をご紹介します。私の印象に残ったのは、「風評被害」だけを強調して現実を覆い隠して「復興」を叫ぶのではなく、この4年間の苦しみ、これからも続く困難としっかり向き合う人々の姿でした。そして原発事故がもたらした、福島県民の辛い経験を、全国のどこでも決して繰り返してほしくない、そのことを「福島から発信しよう」という強い思いでした。

「JA 新ふくしま」の菅野孝志さん：「風評被害ではなく実害だ。米の全量検査をし、25 ベクレル/kg の検出限界以下が 99.8%になっている。原発は決して安全、クリーン、ではなく、安くもない。次の世代に核のない、原発のないフクシマを。福島から世界に発信して行こう。」 「JF 相馬双葉漁協」の遠藤和則さん：「漁業は自粛、試験操業を余儀なくされている。試験操業では、178 種類、25000 検体の放射能測定を行いモニタリングしてきた。自主基準は 50 ベクレル/kg (国の基準は 100 ベクレル/kg)。『安全』は自分たちで守る。汚染水対策と漁業の再生はリンクしている。原発はいらぬ。東電は汚染水対策をしっかりとやって、信頼回復の構築を。試験操業から、本操業へめざしていきたい。」 観光業者の代表、旅館の「若旦那」の檜澤京太さん：「福島では、マイナスからまずはゼロに戻そうと頑張ってきた。東電は外洋に放射能を流していたのに、その情報を隠蔽していた。4年経ってもそのような状況で、また負のイメージに戻された。これは風評被害でなく実害だ。旅館文化は『おもてなし』の心。衣食住にわたる日本の文化だ。それを支える地域との繋がりにしには成り立たない。しかしその文化が厳しい現状に置かれている。未だに避難者の方々は仮設で暮らしている。第一原発では作業員の方々が、懸命の作業をしている。全国の原発を持つ地域の人々には絶対にこのような思いを味わってほしくない。」 石井凜さん（南相馬市小高、高校生平和大使）：「避難生活を続けている。放射能は目に見えない恐怖をもたらした。人々の心や故郷を蝕んだ。平和な、原発のない、核兵器もない世界を実現したい。風化させてはならない。私は将来、看護師になりたい。地元で就職し、故郷の福島を元気にしたい。」 本田歩さん（いわき市、高校生平和大使）：「自分の高校で被爆者の講演会を開催したり、活動してきた。今、一般市民の間で『原発反対』を言うのが難し

いという状況に危機感を抱いている。そんな中で今年の『大飯判決』に勇気もらった。判決では『人格権』つまり命と生活を守ることが、経済活動の自由より勝り、豊かな自然とそれに支えられた生活こそが『国富』なのだと書かれていた。故郷は金で買えない。金で買えないものを、金で売ったことが間違いだった。故郷を『制御不能のモンスター』に売ってはならなかったのだ。事故被害によるコストは、取り返しがつかない。生存権、命を大切にすることが最も大切だ。」僧侶の吉岡棟憲さん(福島市):「宗教は生命を尊重し、自然の恵みを破壊してはならないと説いている。仮設住宅での孤独死、置き去りにしてきた家族同然のペットの死などは、それに相反する。(東電や政府のように)嘘をつくこともいけない。仏教者は脱原発を表明すべきだ。マンハッタン計画の延長線上に原発がある。国と東電は、懺悔懺悔(ごんげごんげ)すべきで、二度とくりかえさない心から誓うべき。浜通り、中通り、元通り！」

事故から4年、「風化」や「分断」が強調されますが、「事故被害と闘う」「このような事故と被害を繰り返してはならない」「原発いらない」等々、「フクシマの思いはひとつ」なんだな…と実感し、勇気もらった集会でした。これからもフクシマの皆さんと、ともに歩んでゆきたい。心から連帯をしたいとの気持ちを新たにしました。国と東電の責任を問い、フクシマ原発事故の被害者の健康と命と生活をまもらせること。被害者の思いを受け止め、全国の原発の再稼働を許さないこと。そのことを通じて、私たちもフクシマの皆さんと繋がってゆきたいと思います。

(振津)

いっしょにフェスタ2015

～ 出会って！知って！つながって！ ～に参加しました

若狭ネット 久保 きよ子

2月28日 大阪市立西区民センターで開催されました。今年で3回目で、主催は、大阪市教職員組合女性部です。いろんな活動を展開するグループ、団体がそれぞれの取り組みを広げるため物品を持ち寄り、出店されていました。

私たち若狭ネットからは、福島県飯舘村などの女性たちが活動している「かーちゃんのカプロジェクト」の豆菓子の販売、そして、チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西からのマトリョーシカの販売、そして、今大問題となっている関西電力の電気料金再値上げ反対！高浜再稼働反対！の公開質問状への賛同のお願いをしました。

30袋の豆菓子は、完売、マトリョーシカの開ければ次々と現れる人形に喜ぶ子どもの姿を見て、心がほっこり、また、賛同を呼びかけた人々は、関電の再値上げに怒りを込めて署名をしてくださり、私たちは元気をいただきました。

手作りパン、お弁当、コーヒー販売、さおり織り、手作り工芸品、バザー店等々、ステージでは、手話歌、女性落語家「桂 二葉」さんの落語と子どもの頃の思い出話、東日本大震災支援報告「あいむひあ大阪」など、女性ならではの目線の発表で、心もほっこりさせられながら、しっかりとつながっていくことへの大切さを感じさせてくださるひとときとなりました。

桂二葉さんのお話の中で、小学校生活では、内気で、前に出て話などできない子ども生活だった。それが、逆に落語に興味を抱き、その自分のもつマイナスイメージに挑戦する自分を見出し、修業を積んでいるという話でした。

これは、私たちが生きていく上でのヒントが隠されているのではないかと、思われました。人生のおもしろさ、前向きさを感じさせてくれる二葉さんのユニークさに粹だなあと感じる自分があることにホッとさせられました。よい雰囲気醸し出すこのフェスタが続いていくことが、大阪の名物になればいいですね。ありがとうございました。



フクシマ事故後初めての「医療費支援」の実現へ前進

「国による福島の高歳以上の甲状腺医療費支援を求める」運動の成果 賛同署名へのご協力ありがとうございました

昨年から皆さんにご協力をお願いしている「福島の高歳以上の甲状腺医療費無料化」を求める賛同署名が、福島と全国から累計9万3153筆（2014年4月から2015年1月20日）が集まりました。前号でも報告しましたが、先日1月26日には、環境省・復興庁と対政府交渉（8団体呼びかけ）が行われ「甲状腺手術や検査を受けなければならない、経済的負担も加わって、苦しい思いをしている人々がいる現実にいる。事故がなければ起こらなかったこと。原発を進めた国が支援すべき。」と、福島県からの参加者の強い訴えと、全国からの多くの署名を背景に、甲状腺医療費支援の実現を迫りました。

その後、2月24日の福島県議会では、甲状腺検査に係る医療費について「国の新年度予算案に、県民健康調査を支援するものとして、必要な経費が計上された」と担当者が答弁しました。そして2月27日には環境省も、「当面の施策の方向性」へのパブコメを受ける形で「県民健康調査の甲状腺検査の結果、引き続き治療が必要である場合の支援を行うこととし、詳細について福島県と検討を進めます。」と表明しました。昨年末に発表された、環境省の「住民の健康管理のあり方に関する専門家会議」の「中間とりまとめ」と「当面の施策の方向性」では、医療支援は一切触れられていませんでしたが、福島と全国からの強い抗議の声を受け、政府も福島県と協議して何らかの「医療支援」をせざるをえなくなったのです。

この「甲状腺医療費支援」は、フクシマ原発事故後、被害者に対して行われる初めての「医療支援」で、甲状腺に限定されたものではありませんが、政府に被害者の健康と医療に対する支援策を行わせるための「風穴」を空けるものです。福島と全国で取り組んだ運動の大きな成果であり、被害者の皆さんを勇気づける「一歩前進」です。署名にご協力下さった皆さん、ほんとうにありがとうございます。手術した人や「ガン・疑い」の人だけでなく、経過観察が必要とされた全ての対象者に対する全額支援を、早期に実現させましょう。運動の力で勝ち取った医療支援を、さらに「健康手帳」の交付等、より包括的な国の医療・生活支援策へと拡大させていきましょう。

署名の次期集約は3月末です。お手元に署名がありましたら早急に送って下さい。4月以降、具体的な福島県での施策が決まり次第、次の「前進」をめざした取り組みを検討する予定です。今後ともご協力、よろしく申し上げます。

（詳細な運動の経過や情報、署名の送付先は「ヒバク反対キャンペーン」のサイトをご参照下さい。） <http://www.jttk.zaq.ne.jp/hibaku-hantai/>

（振津）

♡♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♡お知らせ♡♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♥♣♠♡♣♠♥♣♠♥♣♠♡

* 電力自由化と脱原発を考えるつどい

日時：4月19日（日）午後1時半～4時半

場所：アネックスパル法円坂（大阪市教育会館）A棟5号室

主催：若狭ネット

* 関西へ申し入れ行動

チェルノブイリの日に際し、関西電力へ申し入れを行いましょう。

それぞれの想いを持ってあつまりましよう。

日時：4月24日（金）午後4時～（予定）

場所：関電1階ロビー

カンパ・会費の納入ありがとうございました！！

(2015.2.9～2015.3.22)

向井千晃 東野セツ 胡桃澤伸 加藤純子 小林まゆみ 且保立子 中山一郎 藤田達
泉迪子 寺本和泉 田原良次 中川慶子 齋藤由佳 末田一秀 齋藤充子 吉崎恵美子
斎藤美智子 堀口眞也 康由美 伊賀上菜穂 山崎知行 清水昭 陶山喜代子 猪又雅子
(匿名1名) (順不同・敬称略)

カンパ・会費納入のお願い

カンパ・会費の納入をどうもありがとうございます。そしてこれからの方、どうぞよろしく願いいたします。

保養「ノボキャンプ」が6月中旬から始まります。私たちが交流を続けている、ベラルーシの汚染地に住む子ども達もそのキャンプに参加できるように、今年もまた参加費や交通費の支援もしたいと思います。どうぞ協力をよろしくお願いいたします。

なお振込用紙は皆さまに同封させていただいています。すでに納入いただいた方には重複をお許しく下さい。



ニュース発行:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西事務局

cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

連絡先:〒591-8021 堺市北区新金岡町1-3-15-102 猪又方

0722-53-4644

郵便振替:00910-2-32752

口座名:チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西